

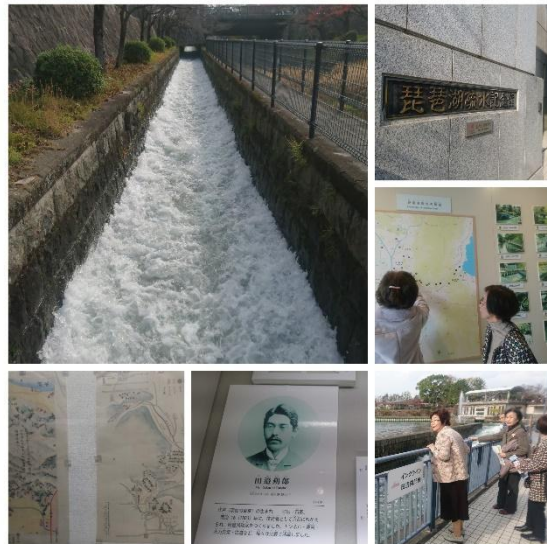
2018年度第3回例会 「琵琶湖疎水記念館、無鄰菴」見学会

雨の予報からの嬉しい晴天。日の光に紅葉の赤が眩しく絶好の散策日和でした。

今年の野外例会は、京都の暮らしの支えとなっている琵琶湖疎水について造詣を深めるべく、琵琶湖疎水記念館を見学し、午後はその疎水から引かれた水を利用した庭園が素晴らしい無鄰菴を訪れました。地下鉄蹴上駅から下り坂を5分ほど行くと、京都市動物園の手前に記念館が見えてきます。この日は遠足で来た小学生も多く、熱心にスケッチをする間を縫っての見学となりました。

琵琶湖疎水は明治23年(1890年)に完成した現役の施設で、大津市観音寺から京都伏見までの第一疎水(全長約20km)、第一疎水の北側を平行する第二疎水(全約7.4km)、

左京区蹴上から分岐し、北白川までの疎水分線(約3.3km)、で構成されています。明治維新後、東京遷都による人口減少で衰退した京都の復興策として、第3代目京都府知事の北垣国道が田辺朔郎らと共に計画。この成功により、水力発電や水車動力産業の発展に繋がり京都は新たな活力を得ました。



水力発電の他にも水運や市内の庭園への引水。御所、東本願寺への防火用水と様々な場面で活躍しています。

記念館ではこうした歴史をまずVTR

で学び、その後多数の貴重な資料を見ながら疎水事業が如何に壮大な計画、工事であったかを実感いたしました。先人のたゆまぬ努力の上に成り立っている現代の安定した不自由のない暮らしを有難く思い、感謝いたしました。

記念館見学後は、京都国際交流会館内のレストランにて昼食をいただき、午後からは名勝「無鄰菴」へ。

無鄰菴は山形有朋の別邸として明治29年に完成。数寄屋造りの母屋と藪内流燕庵写しの茶室、煉瓦造り二階建ての洋館、小川治兵衛の作庭した庭園からなっています。小さな入口

から庭園内に入りますと、色鮮やかな紅葉が無鄰菴特有の芝の緑に映える美しい景色が広がりました。東山の借景と、疎水から引いた小川で“自然主義的な新しい庭園感“を見事に表現しています。そしてその庭園に違和感なく洋館が溶け込んでいました。中に足を踏み入ると、重厚な洋間。そこは無鄰菴会議が行われた部屋とのこと。歴史が動いた場所に立ちその緊張の局面に思いを馳せました。

庭園を散策した後はお抹茶を頂いたり、定期開催されている野鳥ミニ講座を受講したりと充実した時間となりました。

